

# 金星の太陽面通過

船田 工

金星の太陽面通過は、一生の内に2回しか見ることができない。最近では、1874年12月9日以来130年ぶりの2004年6月8日と2012年6月6日である。次回見られるのは、105年後の2117年12月11日である。私は、幸いにこの2回共見ることができ、写真撮影もできたので、大変ラッキーでした。

## 1. 2004年6月8日

この日の金星の太陽面通過の経過は、第一接触が14時11.1分、第4接触が20時19.0分だったので、通過が終わらないうちに西に沈んでしまう。それで、全部の経過を見ることは出来ない状況だった。この日は、朝から曇天だったが、13時30分から撮影の準備をした。曇天のために、一瞬の晴れ間が見えた時しか撮影出来ないのので、カメラ撮影は止めて8mmビデオカメラで連続撮影することにした。撮影は、10cm屈折に32mmのアイピース付けて、8mmビデオカメラをコリメート方式で取り付けた。曇天で太陽が見えないので、8日の太陽の赤径と赤緯を調べて、望遠鏡をセットして太陽を追尾した。しかし、晴れ間はこなかった。時刻の記録はないが、途中で小雨がぱらついてきたこともあったが、諦めずに待っていたら、18時8分になって雲の移動で晴れ間が見えてきたので、撮影を開始した。晴れ間は18時23分までの15分間だけだったが、太陽の表面の黒い金星が撮影できた。当時、関崎海星館に勤務していた宮本治川さんをお願いして、ビデオテープの画面から写真にしてもらったが、満足のいく写真であった。上述のように曇天であつたが、ドームの中で、5時間余り雲とにらめっこした甲斐があった。

## 2. 2012年6月6日

6日の金星の太陽面通過は、第1接触が7時10.9分、第4接触が13時47.9分だった。今日は、前回と違って朝から晴天だったので、5時に起床しドームに上がり、撮影の準備を始めた。

今回は、ドーム内で10屈折のf1200mmの直焦点での撮影、屋上でf1000mmの望遠レンズと8mmビデオカメラでの撮影をした。減光フィルターは、10屈折は付属の専用フィルター、その他は、ND400を2枚ずつ付けた。今回は、撮影計画をつくり6時50分から10分毎に、14時まで撮影したが、金星が太陽面を移動する様子が、良く撮れていた。屋上で撮影中に一般の方数名が見えたので、10cm屈折望遠鏡で見せたが、次回見られるのは105年後とあって感動していた。また、読売新聞西部本社の林 堯志記者が7時から取材に見え12時までいたが、6日の夕刊に、金星ショー「見えた！」の欄に、撮影の様子を書いてくれていた。

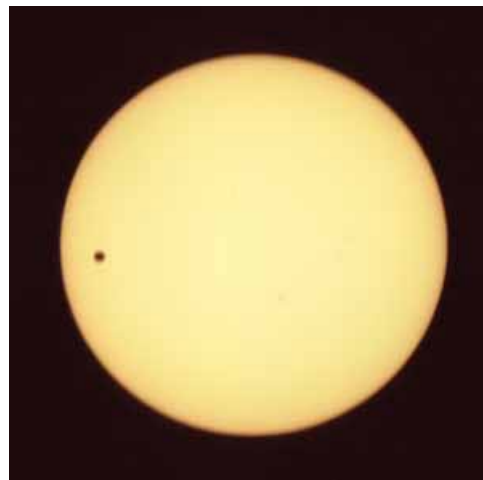
前述したように、一生の中で2回しか見ることが出来ない、金星の太陽面通過を2回共見て撮影もでき、天文人生で最高とも言えるように思えた。



2004.6.8 18h09m 10cm屈折32mm拡大コリメート 8ミレ`テ`板ND400×2



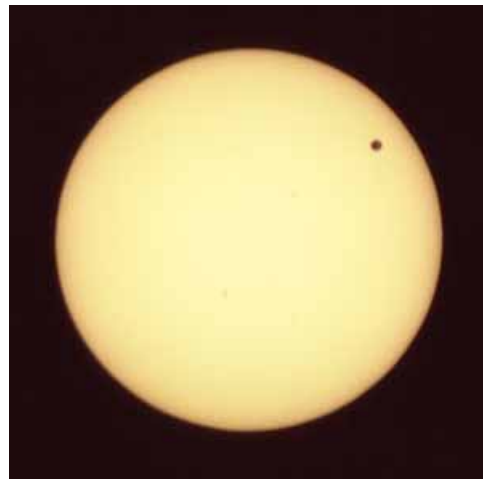
2012.6.6 7h20m 10cm屈折



2012.6.6 8h10m



2012.6.6 11h00m



2012.6.6 13h00m